

Ⅲ 大学におけるキャリア教育プログラムの事例

事例1 宇都宮大学（国立）

1. 大学概要

設立主体	国公立・私立
所在地（本部）	栃木県宇都宮市峰町 350
大学設置年、創立年	設置：1949年
学部・キャンパス	文系・理系（学部数：4学部、2キャンパス） <峰キャンパス> 国際学部、教育学部、農学部 <陽東キャンパス> 工学部
学生数（学部）	4,156人（2014年5月1日現在）

（2014年5月1日現在）

2. キャリア教育への取組状況

（1）キャリア教育についての取組方針、導入の背景等

①理念、取組み方針

- ・ 宇都宮大学では、学生が、将来、社会人として、職業人として自立して、主体的に自分のキャリアを設計・再設計しながら社会に貢献し、生き生きとした人生を送ることができることを目指し、そのために必要な能力を身につけることができるように、入学当初から卒業まで一貫した「キャリア形成」のサポートを行っている。
- ・ キャリア教育への取り組みとは、教育本来の役割、教育そのものであり、キャリアセンターだけが実施するものではなく、各学部の専門教育の中でも行うものと考えている。将来の職業や進路選択に関する動機付け・関心は、まさに学びへの動機付けであり、各学部の教育の中で行っていくものである。
- ・ こうした考えから、①全学を対象とした、キャリア教育・就職支援センターによる授業、②キャリア教育・就職支援センターによるさまざまなキャリア教育プログラムとこれらに連動する就職ガイダンス・セミナー等の各種就職支援プログラム、③各学部独自のキャリア教育的な授業と就職ガイダンスなどによって、キャリア教育を構成している。
- ・ 同大学では、学生が、こうした科目を受講し、また、授業外のプログラムに参加することによって、低学年から自らのキャリア形成に関心を持ち、そのために、大学時代に主体的に何をすべきかを考え、行動して、充実した大学生活を送ることを期待し、その結果として、卒業時の進路選択や就職活動に自信を持って向かっていけることを願っているとしている。

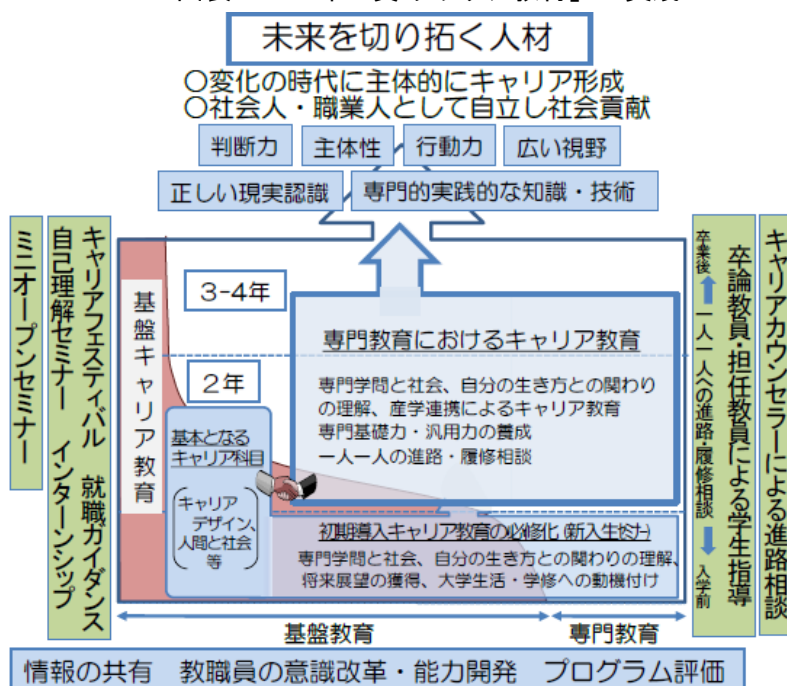
②導入経緯

- ・ 宇都宮大学では、変化の激しい社会に対応できる力を学生が身につけられるような教育を行うことの必要と、キャリア教育を一つの柱に大学教育を改革していこうという観点から、2007年1月に「キャリア教育・就職支援センター」を立ち上げ、専任教員を置いて、キャリア教育に取り組んできた。
- ・ そして、2010年度に、全学の共通教育改革検討の中で、キャリア教育の位置づけの明確化と、大学としての「4年一貫キャリア教育」実施の明確化を行った。まず、具体的には、各学部での導入キャリア教育を必修化した。但し、当面は、入学時のオリエンテーションをキャリア教育・就職支援センターで行った後、学科ごとに行う初期導入科目の中で導入キャリア教育を2コマ必修（2011年度～）にし、学科のその年度の担当の教員が教えることとした。また、そのために、毎年キャリアセンターで、担当教員向け研修や結果報告に基づくフィードバックと更なる働きかけを実施している。

（2）当該大学におけるキャリア教育の特徴（全体像）

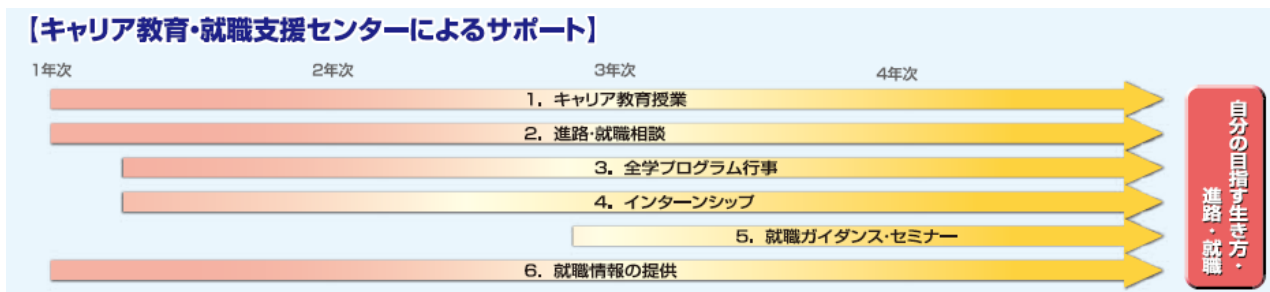
- ・ キャリア教育とは大学教育そのものであるとの考えから、①「4年一貫」の実践、②キャリア教育を、基盤教育や各学部で行われる授業、キャリア教育・就職支援センターによる各種プログラムによって構成していること、③生き生きとした事実に触れ現実社会を正しく理解するとともに、視野を広げること、及び主体性や起業家精神を養うことを基本的なキャリア教育の目指すところとしており、そのために後述のような産業界や地域との連携の下にユニークなプログラムを展開していること、④キャリア教育と就職支援を一体として取り組む体制とし、その中で教員と職員が一体となって取り組んでいること、専任教員だけでなく各学部の教員もキャリア教育に参加させようとしていること、⑤こうした教育を通じて、結果的に学生に就職する力を身につけさせようとしていること、⑥各種授業やプログラム、課題解決・発見型の長期チームインターンシップなど産業界や地域との連携を図っていること、⑦就職先が内定した学生による自主的な後輩の就職活動支援を行う就活応援団（JUST）や、1、2年生チーム（WILL）など学生の力を活用していること、が特徴である。

図表 「4年一貫キャリア教育」の実践



(出所) キャリア教育・就職支援センター『将来の進路を考え今何を学ぶべきかー進路選択とキャリア形成のための授業と就職ガイダンスプログラム案内 平成 26 年度版』

図表 キャリア教育・就職支援センターによるサポート



(出所) キャリア教育・就職支援センター『キャリア教育・就職支援センターのご案内 2014』

1) 4年一貫のキャリア教育の実践

- ・ 入学から卒業まで4年間を通して一貫したキャリア教育が受けられるよう、授業と、キャリアフェスティバルなどの各種プログラムを実施している。
- ・ 1年生からの計画的な履修を促すため、キャリアセンターと各学部の若手教員によるWGで、学部で行われている「キャリア教育のようなもの」までも含む、全てのキャリア教育への取り組みを網羅した冊子『将来の進路を考え今何を学ぶべきか』を作成し、全学生、教員に配布して、学生に計画的履修を呼び掛けている。

2) キャリア教育の構成

- ・ 大きくは、Ⅰキャリア教育関連授業科目（単位科目）、Ⅱ授業以外のキャリアフェステ

イバルや課題解決・発見型インターンシップなどの各種プログラムの2つによって構成されている。Iはさらに、1. 全学生（学部・院）を対象に基盤キャリア教育科目及び教養科目として行われている科目と、2. 各学部の専門教育の一環として行われているキャリア教育関連科目により構成され、IIは、1. キャリア教育・就職支援センターによる全学対象のプログラム、2. 各学部ですで行われてきたキャリア教育的な授業や就職ガイダンスなどにより構成されている。

I キャリア教育関連授業科目（単位科目）	
1. 全学生（学部・院）を対象に基盤キャリア教育科目及び教養科目として行われている科目	
(1)基盤教育	
①基盤キャリア教育科目	<p>学生が進路を選択し、社会の中で職業人として自立して生き生きと人生を送り、社会に貢献することができるよう必要な能力や態度を育成するために開講されている科目。 卒業時に学生が船出する社会や産業・職業の動向や自分自身への理解を深め、個人と社会との関わり、働くことの意味を自ら考えて、キャリアデザインを描くことができることを目指す。</p> <p>そのため、教員の講義だけでなく、外部講師の講義や演習、インタビューなど多様な体験を通じて、社会との接点を持ちながら学べる科目構成となっている。</p> <p><科目名>「人間と社会」「キャリアデザイン」「起業の実際と理論」「働くことの意味と実際～グローバル時代のキャリア形成～」 「企業のグローバル戦略とキャリア教育」「より良く生きる」「グローバル時代の企業経営」等</p>
②教養科目	<p>実社会の出来事を素材としながら、法律的なマインドを養う科目、経済現象を理解するための科目、企業人を講師として金融への関心を深める科目など、キャリア教育とつながりが深い科目が多数、開講されている。</p> <p><科目名>「経済分析入門」「法学入門」「資本市場の役割と証券投資」「マスコミ入門」「応用経済学入門」「男女共同参画社会を生きる」等</p>
2. 各学部の専門教育の一環として行われているキャリア教育関連科目	
■国際学部	<p>・専門科目として、たとえば、国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な仕事の知識や問題解決力を身につける科目、現場の体験や実収経験を通じて、実務能力や企画力とコミュニケーション能力を高める科目などが開講されている。</p> <p><科目の例>「国際キャリア開発」「国際キャリア実習」等</p>
■教育学部	<p>・学校教育教員養成課程では、教師に必要な基礎的な技術を修得し、教師としての心構えなどを学ぶための科目。また、教職についての学びの道標提示や、教職課程で身につけた教師に必要な実践的の力量を確認し、評価・改善するための科目が開講されている。</p> <p><科目名>「教職入門」「教育実践インターンシップ」「教職実践演習」</p> <p>・総合人間形成過程では、専門性を活かしながら複雑で多様な社会に貢献できる、学際的な教養人を養成している。教育学部も専門性を活かすため、また、充実した人生を送れるよう、卒業後の学びに必要な学問的思考や態度を重点的に修得できるような科目が開講されている。</p> <p><科目の例>「論理的思考演習」「実証的調査検証演習」「情報メディア演習」等</p> <p>・また、学士力や社会人基礎力として重要視され、実社会で最も求められている基礎的コミュニケーション力のトレーニングや、その力量と専門的の力量の統合を図っていくための科目も開講されている。</p> <p><科目の例>「コミュニケーション演習」「メンタルヘルス実習」「プロジェクト研究」</p>
■工学部	

<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目として、たとえば、技術者倫理を考える科目、工学の技術を社会に還元するプロセスである経営工学を学ぶ科目、ものづくりに関わる企業や組織の方を講師とする科目、見学や実習を通じてものづくりの現場に触れることのできる科目などが開講されている。 <科目の例>「職業指導」「機械システム工学実習」「土木と社会」「工学倫理」、インターンシップ等 <p>■農学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農学部コア実習やコア科目（農業と環境の科学、生物資源の科学）などの専門導入科目をはじめとして、各学科・コースのディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに従って、それぞれの分野におけるキャリア形成を支援する科目が開講されている。 <科目の例>「農業と環境の科学」「生物資源の科学」、インターンシップ等
II 授業以外の各種プログラム
1. キャリア教育・就職支援センター（全学共通）
<p><名称> 「キャリアフェスティバル」「課題解決・発見型インターンシップ」「労働法制セミナー」「自己理解セミナー」「仕事と生活の両立を考えるセミナー」、等）</p>
2. 各学部によるキャリア教育的な授業や就職ガイダンスなど
<p>（資料）キャリア教育・就職支援センター『将来の進路を考え今何を学ぶべきかー進路選択とキャリア形成のための授業と就職ガイダンスプログラム案内 平成 26 年度版』をもとに MURC にて作成</p>

3. 特色あるキャリア教育プログラムについて

ここでは当該大学のキャリア教育プログラムのうち、キャリア教育・就職支援センターによるもの、中でも特にキャリア教育関連授業科目の「人間と社会」および「キャリアデザイン」、及び授業以外の独自の取り組みを取り上げて、その内容や取り組みの工夫について紹介する。

（1）キャリア教育・就職支援センターが実施するキャリア教育関連授業科目について

①目的・位置づけ

- ・ 2-（2）-2)および3)に記載したとおり。

②概要

- ・ センターの取り組みは、以下のように、授業科目と、授業以外の取り組みの2つに大きく分けられる。

1) センターが実施するキャリア教育授業

- ・ キャリア教育関連授業科目のうち、センターが実施する授業は以下のとおりである。
- ・ いずれも全学部全学年を対象とし、半期2単位の単位科目としている。

「人間と社会」
働くことを考え、進路を選択する時に基本となる産業・企業経営の動向、雇用・労働の実態と問題、働く者を守る仕組みなどについて、最新の情報を学生目線で解説。社会と自分の関わりを考える手がかりを与える基礎科目。（身近なフリーターへのインタビューとグループ討議や企業人・OGOBの講義を含む）
「キャリアデザイン」
講義のほかに企業人の話、自己理解のための演習、キャリアフェスティバルへの参加、自分のキャリアモデルへのインタビューとグループでの話し合い等様々な体験を通じて職業や企業の理解、働くことや自分についての理解を深め、コミュニケーションなどの力を高め、大学時代にやるべきこ

とを理解する。将来を考え具体的なキャリアプランを描くための基礎科目。
「より良く生きる」
工学部教員による試み。仕事と生活、ともによりよく生きるための「場」として両者のかかわりを考え、「生きることと仕事をする事」の意味を考える。また自分にとって価値ある生き方とは何かを洞察しそれに向かって目標達成法を修得する。
「起業の実際と理論」
起業に限らず企業においても必要な起業家精神を養う。基本的なビジネス知識の習得とアイデアを実現していく道筋を理解する。企業家というもの、創業（起業、NPO 立ち上げ等）を身近に感じ、自らの生き方・働き方、職業選択の選択肢の一つであること、どこにいても起業家精神は必要であることを理解する。（2013年度から宇都宮市と連携し、大学における起業教育の専門家を招聘して実施。市民も受講。地元創業者も多教授業に参加）
「働くことの意味と実際～グローバル時代のキャリア形成」
グローバルな時代の中で、やりがいを感じながら自己成長を図りたくましく生きていくために何を身につけるべきか、また、働く意味と現実を探る。
「企業のグローバル戦略とキャリア形成」
企業のグローバル戦略、とりわけ人材マネジメントを中心に学びながら、企業の中でいかにキャリア形成を図っていくべきかを考える。（上記二つはグローバル IT 企業の人事パーソンによる授業。）
「実践企業人材論」
社会に出てからいかに自分を生きるか、夢と理想に向かって力強い人生を歩むかを考える。（講師は地元企業の経営者）
「グローバル時代の企業経営」
企業人としても、起業する場合でも、必要となる企業経営の基礎を学ぶ。（9月集中講義）

（資料）末廣教授提供資料より作成

2) センターが実施する授業以外の取り組み

- ・ 授業以外の主な教育プログラムとして、たとえば以下が挙げられる。

キャリアフェスティバル
全学年を対象とした大学の一大イベント。学生の視野を広げ、羽ばたける可能性を実感させることを目指したキャリア教育の一環。あえて、業界の代表企業及び地元で世界展開している企業の中枢で経営や人事の責任を持つ人達を招き業界や企業の戦略と今後の方向・求める人材についてパネルディスカッションと分科会を開催。地元中小・中堅企業への理解や出会いの場は別のプログラムで設定している。10月または11月の土曜日の午後開催、800~900名参加（うち200名は保護者等）
課題解決・発見型インターンシップ
企業等に対する長期のチームインターンシップ。地域社会において価値創造に取り組む企業人・職業人と関わり合いながら、学生がチームとなり、業界・企業・組織への理解を深め、その企業・組織が抱える課題に対して、課題を分析・発見してその解決に向けた具体的な提案を行う。その過程を通じて、職業意識、チームワーク、課題解決力、主体性、チャレンジ精神、企業・組織理解と他己理解等を育むインターンシップ（主として1、2年生対象）
各種セミナー、個別相談
キャリアカフェ（資料閲覧と情報交換のための学生のたまり場）での昼休みオープンミニセミナー、自己理解セミナー、各種のインターンシップ、仕事と生活の両立を考えるセミナー、労働法制セミナー、個別相談、等を実施している。
就職支援
合同企業説明会、就職ガイダンス、就職面接実践講座、職業適性テスト、SPI対策テスト、エントリーシートの書き方講座、就活支援バス運行、未内定者相談会等

（資料）末廣教授提供資料より作成

③科目の構成

- ・ 1)のなかでも、特に「人間と社会」「キャリアデザイン」を基礎科目と位置づけている。

④実施体制

- ・ 「人間と社会」「キャリアデザイン」については、それぞれ2クラスずつ開講、専任教員（末廣啓子教授）がひとりで担当しているが、「キャリアデザイン」では、自己理解や働くことの意味づけ等に関する3コマを日常学生のキャリア相談を担当しているキャリアカウンセラーに委ねている。各学部のカリキュラム編成の変更により、専門科目の授業がタイトになり、特に陽東キャンパスの学生（工学部）が履修しにくくなったことから、2014年度より「人間と社会」については2キャンパスで開講している。
- ・ 「より良く生きる」は、工学部の教員が担当している。
- ・ 学生に日頃接する各学部の教員がキャリア教育への理解と参加をすることが重要と考え、毎年キャリアフェスティバルの分科会の司会等何らかの役割や意見交換を担うように工夫している。

⑤特徴

- ・ 全学部・全学年を対象としている。
- ・ 学生に、生き生きとした現実、圧倒的な事実を知らせ、見せ、触れさせ、感じさせることを重視。自分が生きている・生きていく社会への関心をもち、働き方・働かせ方の実態や働く人の思い、職業等を理解することを基本とし、そこから自己理解や自分はどういう生き方、働き方をするかを考えることにつなげることを基本的な考え方としている。
- ・ 講義や演習のほか、生身の職業人との直接対話、企業の責任者による業界・企業経営の方向についてのパネルディスカッションへの参加、フリーターへのインタビュー、キャリアモデルへのインタビューとグループ討議・発表での共有等を取り入れた授業としている。また、労働組合の人による講義も実施している。

⑥授業の内容：「人間と社会」

1) アウトライン・概要

名称	「人間と社会」
開講学部	全学部
正課・非正課の別	正課（全学部で・一部学部で） ・非正課
必修・選択の別	必修 ・ 選択（選択必修）
配当年次・学期	1～4年次・前期
時間数	15コマ
単位数	2単位
クラス数	2クラス（2キャンパスで1クラスずつ開講）（昨年度） ※一昨年度までは、1キャンパスのみで3クラスを開講
履修者数	約50名（昨年度）

	※学部の専門教育のカリキュラム変更で陽東キャンパス（工学部）の学生が受講しにくくなったとのこと。（一昨年度は 215 名）
担当者・人数	専任教員（実 1 名）
実施主体	教学・ <u>キャリアセンター</u>

2) 授業の内容や取り組みの詳細

- ・ 経済・社会の変化に伴って、働き方・働き方が大きく変化している。その中で生涯を通じてどのようにどんな職業と関わるのか、どう生きるのかを考え、主体的に選択していくこととなる。そのためにはまず、自分が船出していくこの社会や経済、産業、職業など働くことに関する現実を正しく理解することがとても大切である。この授業はこうした働くことに関するさまざまなテーマについて最新の情報により、その実態と課題を正しく理解するとともに、視野を広げ、自分の進路について考えるきっかけを得ることができる基礎的なキャリア教育科目である。
- ・ 自分がどんなキャリアデザインを描くのか、どんな職業選択をするのか、そのためにはどんな大学生活を送ったらよいかを考える材料ときっかけとして、大きく変容している経済・社会、産業そして、企業経営・人事の方針、働き方の多様化、職業の実態と問題点、働く者を守る法制度などを正しく理解することを到達目標としている。
- ・ 知識を与えるだけではなく、ものの見方や社会への関心、労働問題への関心を高める。
- ・ 授業の進め方として、経済、産業、企業、労働、雇用等に関する様々なテーマについて、講義形式で最新の情報を提供して解説するほか、企業人等の外部講師による講義、インタビュー、受講生同士で意見や情報交換をするグループワークなども交え多面的に展開する。全学部・全学年の人と共に学び、話し合うことができることが大きな特徴である。
- ・ 成績評価方法は、出席日数（30%）、期中レポート、リアクションペーパーなどによる授業への参加状況及び期末レポートによる。
- ・ 全 15 回の授業の構成は以下の通り。

1	イントロダクション（授業のねらい、授業計画等）
2	いま、はたらくとは何か（現実を認識し、働くことの意味を問い直す）
	<ul style="list-style-type: none"> ①若者の雇用・失業の現実とその対応 （高水準の完全失業率・離職率、ニート・フリーター問題を考える、フリーターへのインタビューとグループワークなど） ②産業・職業の動向、企業の経営・人事戦略の変化と企業の求める人材、働き方の多様化 （「終身雇用」の変化、就業・雇用形態の多様化、など） ③働く人の側の変化 （高齢化・少子化、女性の進出、など） ④今、会社はどうなっているか、若者へ何を期待するか （企業の人事担当者などのゲストスピーカー） ⑤ベンチャー企業等新規創業の役割と実態 （ベンチャー企業等新規創業の役割と実態、起業家精神育成教育（小・中・高校生向けプログラム）、創業支援策など） ⑥男女の雇用機会均等、仕事と生活の調和に向けての取り組み ⑦働くときに必要な労働関係の法制度・政策

(働く者を保護する法制度や仕組みと実態、労働組合の活動、様々な雇用対策)
3. 職業とは、働くとは、キャリアとは (自分らしい生き方、キャリア形成に向けて)

3) 産業・職業の理解を高める上での工夫点

- ・ 現実を認識し、働くことの意味を授業で問い直す。産業・職業の動向、企業の経営・人事戦略の変化と企業の求める人材、働き方の多様化などを授業で取り上げている。
- ・ 講義形式だけでなく、グループワークや、企業人等の外部講師による講義等を取り入れ、多面的な展開としている。
- ・ できるだけ統計数字などのバックデータを示し、同時に統計の見方についても教えるようにしている。
- ・ 内容はかなり専門的でレベルの高いことを話したり、議論したりしているが、それをいかにかみ砕いて伝えるかに腐心している。
- ・ 「ブラック企業」という言葉や、ネットの情報に踊らされるのではなく、学生に自分の頭で考えるよう仕向ける。
- ・ 身を守る術としての労働者保護の法制度・対策、労働組合等の理解を取り上げている。

4) 授業に取り入れているツール

○既存のもの

- ・ キャリアマトリクス(学生に大変好評であったが廃止により実施できなくなった)

○独自開発のもの

- ・ 特になし
- ・ 参考資料：阿部正浩他 (2010) 『キャリアのみかたー図で見る 109 のポイントー』有斐閣、各種統計資料や文書資料

(2) 「キャリアデザイン」

①アウトライン・概要

名称	「キャリアデザイン」
開講学部	全学部
正課・非正課の別	正課 (全学部で・一部学部で) ・非正課
必修・選択の別	必修 ・ 選択 (選択必修)
配当年次・学期	1～4年次・後期
時間数	15コマ
単位数	2単位
クラス数	2クラス (1キャンパスのみで実施) (昨年度) ※一昨年度は3クラス
履修者数	約38名

	※学部の専門教育のカリキュラム変更で特に陽東キャンパス（工学部）の学生が受講しにくくなったとのこと。（一昨年度は 149 名）
担当者・人数	専任教員（実 1 名）
実施主体	教学・ <u>キャリアセンター</u>

1) 授業の内容や取り組みの詳細

- ・ 経済・社会の大きな変化に伴い、働き方、働き方も大きく変化している中であって、自分らしく生き活きと生きるために生涯を通じてどのように職業とかかわるのか、どのような職業人生を生きるのか、そのために大学生活をどう送るのか、など、自らのキャリアデザインを描き、行動することが大切である。この授業は、自分の将来を考えキャリアデザインを具体的に描くための考え方、きっかけ、知識、方法等を提供する基礎的なキャリア科目である。
- ・ ①経済・社会の変化、企業の経営・人事戦略の変化、働き方の多様化など働くことを取り巻く状況の変化を知るとともに、それを踏まえ職業や働き方についての理解を深める、②自己理解を深める ③進路・職業選択などに向けての考え方を整理し、具体的な行動の方法やアプローチのしかたを理解することを到達目標としている。また、授業で行うグループワークやインタビューなど様々な体験を通じて、人とのコミュニケーションや自己表現などの社会へ出ていくために必要な力をつけることを目指している。
- ・ 授業の進め方として、講義だけでなく、行事への参加、企業人のゲストの講義、自己分析の演習、自分のキャリアモデルへのインタビューなど様々な体験を通じて理解を深めるものとしている。また、そうした体験や結果を文章にまとめたり、グループで意見交換や発表を行う場も設定する。全学部・全学年の人と共に学び、話し合うことのできる機会である。
- ・ 出席日数（30%）、授業への参加状況（課題・感想ペーパー等の提出を含む。）、及び期末レポートの結果を総合して評価する。
- ・ 全 15 回の授業の構成は以下の通り。

1	イントロダクション（授業のねらい、授業計画等）
2	働き方の多様化(講義) ・企業の経営・人事戦略の動向、働き方の多様化、など
3	キャリアフェスティバルへの参加 ・経済のグローバル化、現下の厳しい経営環境の中で、今企業はどう変わりつつあるのか、若者に何を期待しているのかについて、直接企業から話を聞く(レポート作成)
4	いろいろな働き方 ・キャリアフェスティバルで感じたこと、わかったこと(グループワーク)
5	若年者の雇用・失業問題の実態とその対応(講義) ・高止まりの完全失業率・離職率、フリーター、ニート問題、派遣・請負の問題、それらの対応策等
6	職業とは、働くとは、キャリアとは(講義) ・自分の将来の生き方、進路を考えるとときに必要な基本的なことを学ぶ
7	自分を知る ・自分を振り返る、5年後、10年後の自分を考える

8	産業・職業を知る
9	自分と職業について考える、働く意味を考える (以上の3コマはキャリアカウンセラーが担当)
10～11	働くって？働くこと先輩であるゲストの体験・思いを聴く(企業の中堅管理職及び2,3年生のOGOB)
12～14	わたしにとってのキャリアモデル ・自分にとっての生き方のモデル、気になる生き方の人、反面教師…と向き合う (インタビュー、グループワーク、発表を体験する)
15	まとめ ・自分にとって働くとは何か、これからどんな学生生活を送るか、どんな就職活動をするか

2) 産業・職業の理解を高める上での工夫点

- ・自分のキャリアデザインを描くときに必要なものの修得を目指す。
- ・講義形式だけでなく、キャリアフェスティバルの参加、企業人のゲストの講義、自己分析の演習、自分のキャリアモデルへのインタビューなど様々な体験を通じて、多面的に理解するものとしている。

3) 授業に取り入れているツール

○既存のもの

- ・キャリアマトリクス (学生に大変好評であったが廃止により実施できなくなった)

○独自開発のもの

- ・自己理解のためのワークシート (キャリアデザインノート)
- ・参考資料：阿部正浩他 (2010) 『キャリアのみかた一冊で見る109のポイントー』有斐閣、「キャリアデザインノート」(当該大学オリジナル)

4. 課題・今後の方針

- ・キャリア教育・就職支援の体制整備と、キャリア教育のさらなる体系的実施が必要である。全学の初期導入科目との関連を検討しつつ導入キャリア教育の必修化の在り方を検討すること、キャリアセンターだけが実施するのはなく、そのプログラムを各学部の専門教育の履修体系の中に位置づけるなどつなげていくとともに、専門教育の中でいかにキャリア教育を推進するかが最大の課題であり、ようやく少しずつ進展してきたので、さらなる学部との連携が必要である。その際、将来の職業や進路選択に関する動機付け・関心は、まさに、学びへの動機付けであるという認識の共有化が重要である。

5. その他

(1) UU Career Navi について

- ・就職活動をより効果的に行うための就活支援サイトとして、「UU Career Navi」を開設している (2009年1月導入)。
- ・大学や自宅のPCに加え、スマートフォンからも利用することができる。(学籍番号と

パスワードを入力して利用する。)

- ・ 大学全体のシステム整備が遅れていたため既存のレディメードのシステムを導入したもの。キャリア教育と就職支援に役立つシステムが必要だとして、センターが本部に提案をし、大学として予算をとり導入した。
- ・ 機能としては、大学に寄せられた求人票の検索のほか、就職ガイダンスの登録予約、キャリアアドバイザーの進路相談予約、様々なセンターからの情報提供などがある。
- ・ 入学時に、どのような機能をもったサイトであるか等を記載したパンフレットを配布して説明を行い、登録するよう呼びかけている。なかなか登録してくれない状況があったが、昨年度より、「情報処理基礎」という1年生向けの必修授業のなかで10～15分時間をもらい、説明を行うと共に登録を促した結果、1、2年生の登録率は98%となっている。